

もの言う牧師のエッセー第90話

「これは不祥事ではない！」

「今年はやけにホームランが多いなあ」と思いきや、やはり“飛ぶボール”だった。日本プロ野球機構（NPB）は6月11日、日本プロ野球選手会との事務折衝で、今期から「統一球」の反発係数に変更を加え、“飛びやすく”した事実を認め、野球界に激震が走った。

そもそもこの統一球は、NPBの加藤良三コミッショナーが、2009年のワールド・ベースボール・クラシック（WBC）で日本人選手らが球の違いに戸惑う姿を見たのがきっかけに導入されたという。なぜならWBCは米大リーグ公式球と同じものを使用するために、国際基準に近い球を日本でも統一して導入しようとした為だ。

実は加藤良三氏は、戦後最長の6年半に渡り駐米大使を務め、我々在米日本人にはゆかりのある人物だ。毎年正月には官僚特有の退屈な挨拶をしていたのを覚えている。だが本事業での会見においての彼は目をかっと見開き「これは不祥事ではない！」と強弁、そのまま知らぬ存ぜぬで押し通したのには本当に驚かされた。が、問題はもっと深い所にある。

実は日本のプロ野球界は、大リーグのコミッショナーとは違い、球団経営者である「オーナー会議」が運営の実権を握り、コミッショナーは歴代“お飾り”とされ、それは加藤氏であっても変わらない。彼らにとって第一は企業の利益であり球界ではない。だから7月のオーナー会議でも報道陣が250人詰め掛けようと楽天の三木谷オーナーが5年ぶりに出席しようとする何事も変わらなかった。要するにコミッショナーはこういった有事の際に矢面に立つてもらうための安全装置でしかない。

結果誰一人として責任を取らないシステムが完璧に機能し、かつての戦争、バブル崩壊、そして今日の原発問題を引き起こしたと言えよう。私は、この不祥事を認めない風土こそ、日本にクリスチャンが少ない理由だと考える。なぜなら、キリストが「救い主」であることを認めるには、まず自分に不祥事たる“罪”があり「救われる必要」を認知せねばならないからだ。

「もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、

真理は私たちの内にはありません。」 Iヨハネの手紙1章8節

と聖書が示すとおり、自分を正しいとして、不祥事を隠す限り、真理であるキリストを受け入れることは出来ない。日本人が一刻も早くキリストを信じ、罪を認め救われることを改めて祈る。

2013-7-17

